

「校長室の窓から」

令和8年(2026)4月1日(水)

第1号 発行：隈元 優一

校長はこんなことを考えている、こんな思いです、どうでしょうか、といった具合で不定期に発行していこうと思います。

✪令和8年度のスタートに寄せて

この数日で春の気配が一気に深まり、学校前の桜の木にも、花が咲き始めました。季節の移ろいとともに、西脇北高等学校も新たな年度を迎え、多くの人事異動を経て、新しい仲間を迎え入れた新体制が始動いたしました。私、令和8年4月1日、県立西脇北高等学校に校長として着任しました隈元優一(くまもと ゆういち)と申します。本校には5年ぶりになります。前任は教頭でしたが、立場が変わって見える景色がどう変わったのか楽しみです。



新年度を迎えるにあたり、皆さまそれぞれが希望とともに、少なからず不安も抱えておられることと存じます。

現在の社会情勢は、ロシア・ウクライナ間の緊張、アメリカ・イスラエルとイランをめぐる国際的な対立など、将来の予測が困難な時代にあります。だからこそ、私たちには「在りたい未来」を自ら創造する力が求められているのではないのでしょうか。

その答えは、本校の校訓に込められていると感じております。

「真心もって 手をとりあって 正しく明るく たくましく」

この言葉には、謙虚な心で周囲と良好な関係を築き、協働して課題に向き合い、学び得た知識や技能を活かしながら、最後まで諦めずにやり抜く力が込められています。これらの「心」は、人間性や人間力を育み、技術革新に対応できる力となり、地域社会を担う存在として、自らの価値を高めていく礎となるものです。

教育とは、すぐに成果が見えるものではありません。10年後、20年後の未来において、西脇北高等学校で学んだ生徒たちが、地域社会を支え、人生を切り拓き、活躍する姿を思い描いてください。そう考えると、私たちの仕事は、未来を支える希望に満ちた、非常に意義深いものだと思改めて実感いたします。兵庫教育創造プランの重点テーマ、－『『絆』を深め、『在りたい未来』を創造する力』の育成に通じると感じております。

本年度も、教職員一同が心をつにし、「行動(自分事として考え、動く)」「連動(連携・協働し、効果的に動く)」「感動(感じて動き、心を動かす)」という三つの“DO”を意識しながら、教育活動に取り組んでまいります。そして、「三方よし(生徒よし、学校・教職員よし、地域よし)」の理念を基盤に、より一層のウェルビーイングの実現を目指します。